図書館だより　２月号

北島中学校図書室

２月といえば節分やバレンタインと色々あります！しかし，新型コロナウイルスの影響で友だちと会うこと，一緒に過ごすことも難しくなってしまいましたね……。

こんなときこそ，日頃の感謝を手紙やメッセージカードにして送ってみませんか？口では言えない言葉も文字にするとすんなり伝えられることもありますよ！図書室には，メッセージカードの飾り付け方や文章のつづり方などいろいろな本があります。ぜひ，のぞいてみてください！

図書室の本を借りたままになっている人は図書室まで返却にきてください。期限内に読み切れなかった時は延長手続きをお願いします。

アンケート実施のお知らせ

１・２年生を対象に図書室の利用状況アンケートを実施します。利用しやすい図書室を学校全体で作っていくために，協力よろしくお願いします。また，みなさんのお気に入りの本（小説・漫画・雑誌など）を質問している項目もあります！こちらは，図書購入の参考にしますので，ぜひ書いてください！

昨年度のアンケートを参考に図書室で購入した図書の一部を紹介しますので，参考にしてください！

・マスカレード・ホテル　東野圭吾

2019 年に映画化された作品の原作小説です。マスカレードとは，仮面舞踏会を意味します。突然，殺人犯から犯行予告が示されたのはホテルだった。事件解決のために警察は，潜入捜査を実行します。果たして犯人を捕まえることはできるのでしょうか？

・ぐりとぐら

みなさんよく知っている絵本だと思います。子供の頃は気がつかなかった新しい発見があるかもしれませんよ！図書室では，絵本の貸出も行っています。私は，色々な動物が一緒にかすてらを食べるお話が好きです。

・一生分の好きを，君に捧ぐ

ケイタイ小説サイト「野いちご」に投稿されていた恋愛小説を書籍化した作品です。

楠本葉由は過去に幼なじみの五十嵐蓮を失い生きる気力すらありませんでしたが，たまたま訪れたクラブハウスで聴いた大賀千颯の声に救われます。2 人は付き合うことになりますが，大賀には秘密があり……。

＊図書館開館時間　放課後～

＊借りられる本の冊数　３冊まで

＊借りる期間　２週間

わたしの読書は「青春の門」から始まりました！

北島町立北島中学校長　　片倉　繁樹

「本好き，読書好き」とは到底言えなかった私が，本を読むようになったのは大学時代でした。思い起こせば，もう４０年も前の話になりますが，大学近くの古本屋で五木寛之の「青春の門」に出合ったのがきっかけです。当時，「第１部 筑豊篇」から「第６部 再起篇」まで，文庫本で１２冊（各部上・下巻）を一度に購入したところ，面白さのあまりひと息に読んだことを覚えています。それ以来，五木寛之に興味を持ち，同じ古本屋で単行本でも「青春の門」を買いそろえることになってから約４０年，五木寛之の作品を探しては読むようになり，５０作品以上（約１００冊）は読んだように思います。徳島市で開かれた講演会にも行きました。

年を重ね，若い頃に読んだ本をもう一度読み返してみたいという思いが強くなっていた矢先の令和元年（２０１９年）９月，続編の「新青春の門 第９部 漂流編」が刊行されました。すぐに購入し，一気に読むと同時に，手元に持っていない「第７部 挑戦篇」「第８部 風雲篇」もネットで購入しました。（発行年が古いため，街の書店には置いていない）

そんな中，思いも寄らない新型コロナウイルスが世界中で蔓延し，「新しい生活様式」が定着。外出を控える状況の中，「第１部 筑豊篇」から「第６部 再起篇」まで著者による大幅な加筆を受けた「改訂新版 青春の門」でそろえ直し「第１部 筑豊篇」から「新青春の門 第９部 漂流編」まで，数か月で読み切りました。

さて，数多くの五木作品の中に度々登場してくる言葉「青春・朱夏・白秋・玄冬」について触れてみたいと思います。古代中国では，人生を季節に当てはめた考え方がありました。日本では若さの象徴として「青春」がよく使われていますが，年代で言えば１５歳から３０歳に当たる年代で，季節で言うと春になります。色で言うと「青」で，草木が伸びる様子を表します。「草木が青々と茂る」と言われるように，草木は本来「緑色」ですが，「青」で表現しています。

働き盛りの３０代から５０代は，夏の太陽のように仕事や生活で頑張りつつ，自分がどういう人間なのかを知る年代に当たる「朱夏」で，色は「朱色，赤」になります。

５０代前半から６０代前半は「白秋」と言われ，秋の静けさのように落ち着き，人の言葉を素直に聞くことができる年代と考えられています。色は「白」ですが，真っ白ではなく透明な色を表しています。

「玄冬」は冬で，６０代後半以降をさします。人生を完成させる年代であり，次の春を待つように次世代に知識や願いを残していく年代になります。色は「黒」ですが，正確には赤みがかった黒「玄色」です。染め物で「玄色」を出すことは難しいことから，優れた技量を持つ人を「玄人」と言い，「玄」の字を当てます。

私は今，「白秋」の年代で，やがて「玄冬」を迎えます。この年になって「青春の門」を読み返したわけですが，そこには人生の起伏が描かれており多くのことを学びました。主人公や主人公を取り巻く登場人物が，それぞれの人生で味わう喜びや挫折を自分の人生に置き換えてもみました。また，「青春」の真っただ中にいる主人公の今後の人生を思い描いてもみました。戦後の昭和の時代が話の中心であり，平成の時代後半に生まれた中学生のみなさんにはなじみがないとは思いますが，３０歳頃までの青春時代に読んでおくのもよいかもしれません。

「読書は，人生を豊かにする」とよく言われます。本を読むのは面倒だ，と思っている人も多くいると思いますが，何かがきっかけで本を手にしたときがチャンスです。心に栄養を与えることができ，読書する喜びを味わうことができれば，こんな幸せなことはありません。

結びに，「筑豊篇，自立篇，放浪篇，堕落篇，望郷篇，再起篇，挑戦篇，風雲篇，漂流編」の全９部からなる「青春の門」の続編が今後出版されることを期待したいと思います。